

# 今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



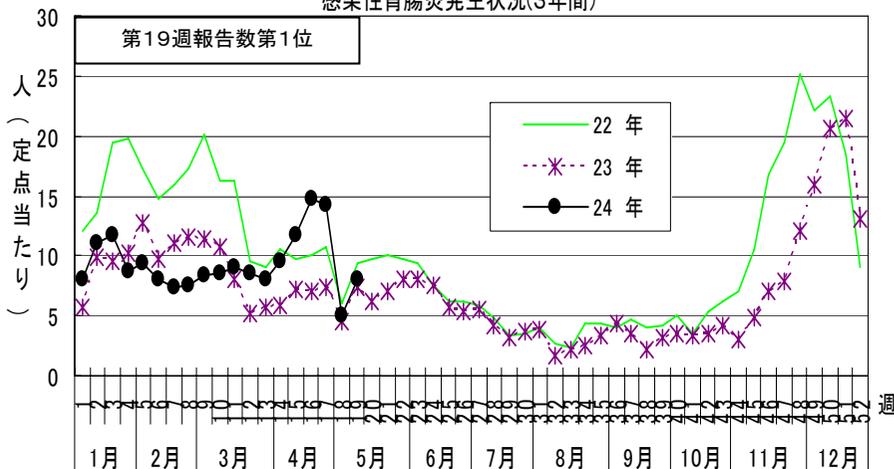
KAWASAKI CITY

平成24年5月7日（月）～5月13日（日）〔平成24年第19週〕の感染症発生状況

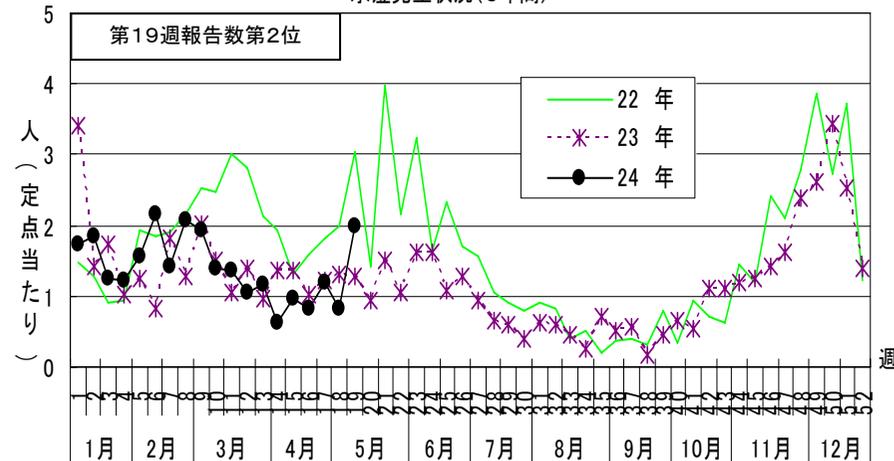
第19週で患者報告数の多かった疾病は、1)感染性胃腸炎 2)水痘 3)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。

感染性胃腸炎は定点当たり8.06人と前週(5.10)より患者報告数は増加し、過去10年間の同時期と比較して、平成22年に続き2番目に多い報告数となっています。水痘は定点当たり2.00人と前週(0.83)より患者報告数は2倍以上に増加しており、例年5月から6月にかけて報告数が多くなりますので、注意が必要です。インフルエンザは定点当たり0.41人と前週(0.56)より患者報告数は減少しましたが、例年の同時期に比べて報告数が多いため、もうしばらく注意が必要です。

感染性胃腸炎発生状況(3年間)



水痘発生状況(3年間)



## 水痘(みずぼうそう)対策の徹底を！！

川崎市内において、グラフにあるとおり、水痘の患者報告数が急増し、特に多摩区で高いレベルにありますので、今後注意が必要です。

### \* 症状

潜伏期間(2～3週間)を経過した後に、軽い発熱・倦怠感・発疹等の症状がでます。主に9歳以下の小児で好発しますが、一般的に予後・経過は良好です。

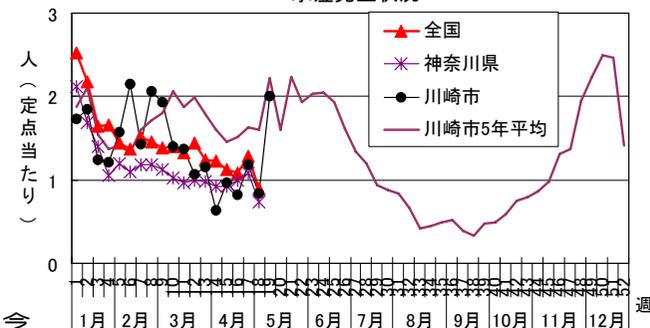
### \* 感染予防対策

水痘は**感染力が非常に強く**、ウイルスを含む飛沫や飛沫核による**空気感染**をおこします。

右にあるように、学校保健安全法で、水痘の出席停止に関する基準がありますので、**感染したら、通院以外の外出はなるべく控え、登校・登園については学校や主治医などと相談しましょう。**

予防にはワクチンを接種することが有効です。通常は、1歳から接種できますが、任意接種(有料)ですので、主治医に相談しましょう。

水痘発生状況



### 学校保健安全法での取扱い

水痘は学校保健安全法において、第二種感染症とされています。出席停止期間の基準は次のとおりです。

○すべての発疹が痂皮(かさぶた)化するまで出席停止とする。ただし、病状により感染のおそれがないと認められたときはこの限りではない。